

全国木材資源リサイクル協会連合会
平成25年度第1回木材資源リサイクル調査広報委員会議事録

開催日時 : 平成25年8月2日(金) 15:00~16:40
場 所 : 中央区立産業会館4階第4集会室
出席者 : フルハシEPO(株) 李 重賢 (仁木委員の代理)
住友林業(株) 松 康利 (矢吹委員の代理)
萬世リサイクルシステムズ(株) 桑野 俊 委員
連合会専務理事 弘山 知直 委員長
関東協会専務理事 原 信男 委員
北日本協会 伊藤 孝典、
東海協会 手嶋 祐二
近畿協会 三砂 和浩
九州協会 河野 秀彦

(欠席委員)

亀井産業(株) 亀井寿之委員、(株)チップ興業 彦坂裕一委員、
(株)荏原環境プラント 山本伸也委員

(オブザーバー出席)

鈴木 隆 理事長、鈴木重芳 顧問、日本繊維板工業会 瀧川充朗、
中山リサイクル産業(株) 堀 文弘
(事務局) 椎津まゆ美、
(プレス) 日報ビジネス、木材新聞

<会議概要>

1. 委員長挨拶

猛暑の中、ご出席いただきありがとうございます。

木質チップ市況価格の見える化については、ワーキンググループの議論も回を重ね、9月の理事会で承認を得る運びとなった。

FIT関連でも、色々な問題が出ているが、実質的な検討をこの委員会で行い、理事会に報告し、適切な対応をして、会員にとってプラスになるようにしていきたいと思っている。

そのためには、この委員会での検討が重要になるので、十分な議論をお願いしたい。

(委員の出席状況報告)

本日は、2名が代理出席、1名から委任状が出ているので、形式的には5名の委員が出席していることになり、委員8名の過半数が出席として、議決が必要な場合、委員会としての決定が可能な状況であることを報告した。

(前回の委員会議事録の確認)

前回の委員会は、3月22日に開催し、社内の人事異動による委員の交代の報告、「木質チップ市況価格の見える化検討ワーキンググループ」のメンバーを入れ替えてパートⅡとして、4月から検討をスタートさせることなどを協議した。

また、平成25年度の重点課題として出荷する木質チップの混入物についての対策検討を選定した。

さらに韓国協会との交流についても確認したが、その後の韓国側の事情で、前回の委員会時の状況とは異なり、現時点で交流計画を保留していることを報告した。

2. 議事要旨

(1) 「木質チップ市況価格見える化」WGにおける検討結果の中間報告

桑野WG座長

4月から8月まで5回にわたり会議を開催した。

会員向けのアンケート様式、集計方式を検討し、一応の取りまとめができた。要点は、全国を13ブロックに区分し、それぞれのエリアのチップのグレードを7区分した市況価格を調査するという案にした。

価格はユーザーの軒下価格に統一し、マテリアルはBDT、サーマルはADTで表示することとした。

集計は、一定の幅を持たせて範囲で表示し、一定のルールで異常値を排除する方式を採用した。また、母数の少ないデータは、エリアかグレードを拡大して表示するか、伏字とするかを今後実態を見ながら選択することとした。

このアンケートは9月と3月の年2回実施することとし、その間を補完するため

各エリアの代表社が毎月変動状況を報告する方式とし、その内容を毎月HPを更新する形で公表することとした。

初年度に限り、8月中に回答するよう調査表を発送し、9月26日の理事会に集計結果を速報として報告できるよう配慮したい。その結果を見てリファインし、次回以降はできるだけ同じルールで、同じ条件のデータを集計できるようにしたい。

また、従来定めていた「品質規格」についても、特にFIT該当の生木類についての解釈の統一を図るため、一部補足した説明を追加し、暫定的な基準として当面使用することを提案した。

以上の説明についての意見・質問を求めたが、特になく、この案で進めることになった。

したがって、盆休み明けにアンケートを発送し、8月末に回収することにした。また、WG会議を9月26日の理事会の前（午前中）に開催し、集計状況を見ながら、理事会に諮る内容を議論することとする。

(2) 木質チップ生産会員実態調査及び木質バイオマス需要調査について

弘山委員長

毎年実施している会員向けとユーザー向けの実態調査を今年度も実施したい。

経年変化を見ることが主目的なので、できるだけ調査項目を変更したくないが、今年度から「市況調査」を実施することになったので、これとの重複を避けるため、価格面の質問事項は全面的に削除することにした。

また、調査票が時間差で2通届くことは歓迎されないので、「市況調査」と同時発送することにした。

特にユーザー向け発送先は、変動が大きいので、各協会に再チェックを依頼した。

本案については特に異議がなく、提案通り実施することです承された。

(3)その他

ア、「木材サミット」の状況について

6月19日に第1回木材サミットが開催され、理事長と専務理事が出席した。その議事録が送られてきたが、これを見てわかるように当初事務局で考えていた構想とは大幅に後退した内容で、今後活動して行くことになるようだ。

当日提案書様式が配布され、7月末までに提案素材を記載して提出するよう要請があったため、提出期限である7月31日に当連合会としての提案を提出した。

ところが、直ちに座長から連絡があり、「提案のお願いを準備したが、当日の意見から、すぐにそこまで行くことは無理と判断した。そこで、とりあえずこのサミットそのものの意義と、今後存続すべきか、期待する事項は何か等についてのアンケートを先に実施することになったので、今回送ってもらった提案は、今後の議論の中で参考にしたい。」との話であった。

したがって、木材サミットそのものは当初の期待から、相当後退したと見るべきと考える。

しかし、当連合会としては、理事会で意義あるとして参加を決定しているので、今後も引き続き参加する意向に変更はないことを確認した。

理事長：議事録では、私の発言で、木くずを産廃から除外する運動を展開するかのような記載になっているが、趣旨は「家電リサイクル法」のように「木材リサイクル法」のような新たな法体系を整備すべきだと発言したわけで、誤解のないようにお願いしたい。

繊維板工業会：この会は、もともとヨーロッパのボード関連産業が一堂に会して組織化されていることに倣って、発案されたもので、そのことがどこまで理解されているかが疑問だ。今回全木リ連のようないわゆる「木材産業」とは別のところにいた組織が参加することにこそ意義があるので、あまりおおげさに考えずに参画して行けばいいと思う。

イ、海外先進地域の視察について

JTBに企画を依頼していたが、提案されたメニューのうち、当方の趣旨に適合しそうな案を選択し、スウェーデンとフィンランドを5泊7日の予定で訪問し、木

材リサイクルの実施例と、バイオマス発電施設を視察する案を提示する。

現地の気候と、時期による価格差を考慮して、3月下旬に出発する行程を提案したい。

20名の参加者がいるかどうかの実現のカギになるので、各協会で大まかな参加意向を確認してほしい。

主な意見

- ・ 概ね魅力のある案なので、結構参加者はあるのではないかと。逆に最大募集人員を定めるべきだろう。
- ・ 添乗員が、一人当たり27,000円と大きな負担になっているが、旅慣れた人が参加することを考えれば、不要ではないか。
- ・ スtockホルムで1日フリータイムを取ればより魅力的になるが、行程の変更は可能ではないか。

本日の意見を踏まえて計画を修正し、8月19日に熊崎先生に会う予定があるので、そこで視察先についての助言をいただいた上で、コースを確定し、9月の理事会で了承を得て、正式な募集に入ることにしたい。

ウ、その他

- ・ 「森のエネルギー研究所」が作成した「バイオマス発電計画一覧」を参考に配布した。

同研究所が、林野庁のFITに係る木質バイオマス燃料の品質規格の統一についての事業を受託したことから、今後当連合会も交えて協議がされることになる。

- ・ 「製品チップの混入物」対策について

原 事務局長

ワーキンググループの中で、調査票を配布し、混入物の実態と対応について取りまとめた。

その結果として今後の対策案を提示した。

一方、「合成木材」がバイオマス発電の炉に「木質チップ」として投入され

たことにより、大きなトラブル事例があった。

この様な事例の再発防止のため、合成木材のメーカーとも連携した今後の対応について検討しているところである。

主な意見

- ・ 混入物の対策について、アンケートの回答そのままを「マニュアル」に掲載する段階ではないので、もっと、整理していいのではないか。
- ・ 受け入れ停止とか持ち帰りとかの事項は、個別の話なので、ここからは削除すべきだ。

次回委員会は市況価格調査がまとまった段階での検証と、HPでの広報内容についての検討、「エコプロダクツ」での企画、ユーザー懇談会への対応について協議する必要があるので10月下旬に開催する。

10月23日（水）を第一候補する。

閉会：16:40

以 上

(文責:弘山)